

奄美市立佐仁小学校 ～佐仁八月踊り伝承活動の取組～



起源は不明であるが、ノロ神の祭式の踊りとして端を発したらしい。そこに村人たちも加わり旧暦8月の丙（ひのえ）を「アラセツ」、壬（みずのえ）を「シバサシ」として、家々を踊り回りながら、火災予防祈願をしたことが由来となっている。その後、五穀豊穡祈願の意味も加わり、グループ形成の踊りに形態を変えながら、現在に至っている。

「イソ(衣裳)踊り」を踊りながら最初の家に向かう。チヂンの音を聞きつけた住民が集まり、輪になってシマ唄に合わせて踊り始める。男性が打ち出す歌に女性が歌い返しながら最初はゆっくりと踊るが、途中からチヂンの刻むリズムが速くなり、踊りも激しくなくなる。2曲ほど踊ると、最後は「六調踊り」で締めくくる。なお、チヂンを打つのは女性と決められているのが佐仁の特徴である。佐仁校区の八月踊りは県の無形民俗文化財に指定されるなど、文化的価値が高い伝承文化として有名である。一方で近年は、歌いながら踊ることができる後継者の育成が校区のニーズとなっている。そのニーズに対し、学校では、月1回のシマ唄教室を教育課程に位置付け、シマ唄に慣れ親しませしている。また、1年間をかけて慣れ親しませる踊りを三曲指定し、朝の会に練習する場を位置付けることで、日常的に八月踊りに触れることができるようにしている。